



# カルチャートーク Creators@Kamogawa

Creators@Kamogawa は、日本とドイツのクリエイターが、アートやカルチャーに関連する話題について語り合うイベントシリーズです。

## 第1部：進化するゲーム – デジタルメディアの可能性

デジタルメディアの登場によって、芸術表現はその様相を大きく変えました。いわゆるメディアアートばかりでなく、美術、映画、演劇、ダンス、音楽など、変革はあらゆるジャンルに及んでいます。では、これまでは文学が代表してきたストーリーテリング(物語表現)はどんな影響を受けているのでしょうか？ 変化した表現を受け止める我々自身の感性も変わったのでしょうか？ 電子音楽を含む幅広い音楽表現に取り組み、1980年代に流行したビデオゲームをリサーチするレジデントと、ゲームAI開発の第一人者が意見を交わします。

## 第2部：移民の時代 – 在日ブラジル人コミュニティとは？

1990年に出入国管理及び難民認定法が改正されて以来、日本に移住する日系ブラジル人は急増しました。その後、リーマン・ショックなどによる増減はあったものの、いまでは20万人弱の日系ブラジル人やその家族が暮らしています(法務省調べ)。移民は社会に多様性をもたらす一方、以前から暮らす住民との間に軋轢が生まれることもあります。「多文化共生」の実態はどのようなものか？ 在日ブラジル人社会を含む様々な「少数派」にレンズを向け続けてきた写真家と、日本に20年以上暮らし、「在日ブラジル人一世」を自任・自称する社会学者が話し合います。

トークの後は、館内のドイツカフェ『カフェ・ミュラー』にて、ドイツビールやおつまみを片手に交流をお楽しみください。交流会では、滞在中のドイツの芸術家の作品も、モニターでご覧いただけます。



小崎 哲哉 (司会、構成)  
Tetsuya Ozaki (Moderator)

1955年東京生まれ。ウェブマガジン『REALKYOTO』発行人兼編集長。写真集『百年の愚行』『続・百年の愚行』を著者として刊行し、現代アート雑誌『ART IT』を創刊した。京都造形芸術大学大学院学術研究センター客員研究員、同大学舞台芸術研究センター主任研究員、同大学院、愛知県立芸術大学講師。あいちトリエンナーレ2013のパフォーミングアーツ統括プロデューサーも担当した。2018年3月、『現代アートとは何か』を河出書房新社より刊行。realkyoto.jp



© Fati Baghaturia

ウド・モル (作曲家、トランペット奏者)

Udo Moll (Komponist, Trompeter)

1966年生まれ。ケルンでジャストランペットと作曲を学んだ後、ジャズ、ワールドミュージック、電子音楽など、幅広いジャンルで作曲や即興演奏などを展開。近年、トランペットやコンピューターを使ったハイブリッド楽器の開発にも取り組む。ヴィラ鴨川滞在中は、80年代に流行した日本のビデオゲームについてリサーチし、『ドラキュラ伯爵』をテーマにゲーム画像や映像をもとにした新しい電子音楽作品を作曲する予定。www.udomoll.de



三宅 陽一郎 (ゲームAI開発者)

Youichiro Miyake (Entwickler für Game-AI)

京都大学で数学を専攻、大阪大学(物理学修士)、東京大学工学系研究科博士課程を経て、2004年よりデジタルゲームにおける人工知能の開発・研究に従事。国際ゲーム開発者協会日本ゲームAI専門部会設立(チェア)、日本デジタルゲーム学会理事、芸術科学会理事、人工知能学会編集委員。共著『デジタルゲームの教科書』『デジタルゲームの技術』『絵でわかる人工知能』、著書『人工知能のための哲学塾』『人工知能の作り方』など。miyayou.com



© Ralph Goertz

トビアス・ツィローニ (写真家、映像作家)

Tobias Zielony (Fotograf, Filmemacher)

1973年生まれ。ライプツィヒとウェールズで写真を学んだ。少数派の人々や郊外に住む青少年などを主な写真題材とする。欧米各地で数々の個展やグループ展に参加。2015年には第56回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展ドイツ館で作品を発表した。2017年冬、東京に滞在し、「日本における移民」をテーマに日系ブラジル人コミュニティをリサーチした。ヴィラ鴨川滞在中もこのリサーチを進め、日本人のアイデンティティ構築やポスト植民地主義の余波について考察する予定。



アンジェロ・イシ (社会学者、武蔵大学教授)

Angelo Ishi (Soziologe, Musashi University)

1967年サンパウロ市生まれ。サンパウロ大学ジャーナリズム学科卒業。90年に日本に留学、新潟大学大学院および東京大学大学院を経て、ポルトガル語新聞の編集長を3年間務めた。日伯の移民やメディアを研究する傍ら、ジャーナリストとしても活動。また日本の各地で日本人市民やブラジル人住民を相手に国際交流や共生をテーマに数多くの講演をこなしてきた。著書に『ブラジルを知るための56章』(明石書店)ほか。武蔵大学社会学部教授。



主催・お問い合わせ  
Goethe-Institut Villa Kamogawa

京都市左京区吉田河原町19-3 (川端通り荒神橋上る)

TEL: 075-761-2188 (内線31#)

info-kyoto@goethe.de

www.goethe.de/villa-kamogawa

〈交通のご案内〉

京阪電車 出町柳駅より 南へ徒歩8分

京阪電車 神宮丸太町駅より 北へ徒歩6分

館内のドイツカフェ『カフェ・ミュラー』もドイツビールや軽食などをご用意して、皆様のお越しをお待ちしています。(カフェ・ミュラーでの飲食は各自ご負担ください)



© Florian Ross

GOETHE  
INSTITUT  
VILLA KAMOGAWA